



体育会少林寺拳法部
創部40周年記念礼拝

2007.11.10

立教大学

せい 歌 390 番 (式文10・11頁)

じよ げん
序 言

司式者 ^{りっきようだい}立教大学体育会 ^{じけんぼうぶ}少林寺拳法部 ^{まも みちび}を守り導き、^{そうぶ}ここに創部
40 ^{しゅうねん}周年 ^{きねん}を記念する ^{れいはい}礼拝 ^{めぐ}をおこなえる ^{ぜんのう}恵みを ^{かみ}全能の ^{かん}神に感
^{しゃ}謝し、^{とも}共に ^{こころ}心を ^{いの}あわせて ^す祈り、^{ねんげつ}過ぎし年月 ^{あす}をかえりみ、明日
^むに向かつて ^{けつい}決意 ^{あら}を新たに ^{いた}いたしましょう。

れん とう
連 禱

司式者 ^{かみ}神よ、^{つね}常に ^{さき}先となり ^{あと}後となり ^{まも みちび}わたしたちを守り導き、
ここに ^{そうぶ}創部 40 ^{しゅうねん}周年 ^{きねん}を記念する ^{れいはい}礼拝 ^{めぐ}をおこなえる ^{こと}ことを
^{かんしゃ}感謝 ^{いた}いたします。どうぞ ^{りっきようだい}立教大学体育会 ^{じけんぼうぶ}少林寺拳法部
^{あたら}の ^{あす}新しい ^{きず}明日 ^{ちから}を築く ^{あた}ため、わたしたちに ^{ちから}力を ^{あた}お与え ^{くだ}くだ
^{さい}さい

一同 ^{しゅ}主よ、わたしたちを ^{めぐ}恵み ^{みちび}導いて ^{くだ}ください

司式者 ^{みなもと}いのちの ^{かみ}源 ^{あた}である神よ、わたしたち ^{あた}それぞれに ^{あた}与えられ
ている ^{ゆた}豊かな ^{たまもの}賜物 ^{もち}を用い、^{ちしき}いよいよ ^{ふか}知識 ^{けんこう}を深め、^ま健康 ^まを増
^{くわ}し ^{じんかく}加え、^{たか}人格 ^{かみ}を高め、「^{ひと}神と ^{はたら}人びとの ^{もの}ために」働く者とし
^{くだ}てください

一同 ^{しゅ}主よ、わたしたちを ^{めぐ}恵み ^{みちび}導いて ^{くだ}ください

司式者 ^{つく}すべての ^{ぬし}ものの ^{かみ}造り主 ^{りっきようだい}である神よ、^{せいかつ}立教大学 ^{せいかつ}での ^{せいかつ}生活 ^{せいかつ}に

よって得た数々の良いものをもって、わたしたちを社会に
貢献する者とならせてください

一同 主よ、わたしたちを恵み導いてください

司式者 天の父なる神よ、わたしたちに平和を愛し、自分のことば
かりでなく隣人のことをも考え、自分を愛するように
隣人を愛する心をお与えください

一同 主よ、わたしたちを恵み導いてください

司式者 主は皆さんとともに

一同 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

造られたすべてのものを愛される主よ、立教大学体育会
少林寺拳法部を守り導いてください。どうか彼らが自ら
決断する必要のあるとき、その心を励まして正しい道を選
ばせてください。また喜びと希望をもってともに力を合わ
せ、み心にかなう道を歩ませてください。主イエス・キ
リストによってお願いいたします。

一同 アーメン

創部40周年感謝の祈り

司式者 造られたすべてのものを愛される主よ、立教大学体育会
少林寺拳法部を守り、創部40周年記念の式をおこなえ

る恵みめぐを感謝かんしゃし、み名なをほめたたえます。どうかこの恵みめぐを忘れず、たがいに相親あいたしみ、相和あいやわらぎ、それぞれの本分ほんぶんを尽くし、社会しゃかいにあつて常つねにみ心こころにかなう道みちを歩あゆませてください。主しゅイエス・キリストによってお願いねがいたします。

一同 アーメン

一同着席する。

聖書 <ヨハネによる福音書 15:9～17>

朗読者 聖書せいしょはヨハネによる福音書ふくいんしょだい第15章しょう9節せつから

9 父ちちがわたしを愛あいされたように、わたしもあなたがたを愛あいしてきました。わたしの愛あいにとどまりなさい。10 わたしが父ちちの掟おきてを守り、その愛あいにとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟おきてを守るなら、わたしの愛あいにとどまっていることになる。

11 これらのことを話はなしたのは、わたしの喜びよろこびがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びよろこびが満たみされるためである。12 わたしがあなたがたを愛あいしたように、互たがいに愛あいし合いなさい。これがわたしの掟おきてである。13 友とものために自分じぶんの命いのちを捨すてること、これ以上いじょうに大きな愛あいはない。14 わたしの命めいじることを行おこなうならば、あなたがたはわたしの友ともである。15 もはや、わたしはあなたがたを僕しもべとは呼よばない。僕しもべは主人しゅじんが何をなにしているか知しらないからである。わたしはあなたがた

を友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。¹⁶ あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたがで出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。¹⁷ 互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

朗読者 聖書を終わります。

奨励

部旗の祝別

司式者は準備された部旗の前に行き、次のように言う。

司式者 主よ、わたしの神よ、あなたは栄えと輝きをまとい

一同 光を衣として身を被っておられます

司式者 祈りましょう

すべてのものの造り主、清め主である全能の神よ、今、み前に供えるこの部旗を祝福し、清めてください。

どうかこれに天よりの力を与え、誇りとし、ますます一致の心をもつことができますように。また日々力を尽くしてみ跡を踏み、神と人びとに仕え、ついに朽ちることのな

い^{えいこう}栄光の冠^{かんむり}を得^えることができますように。主^{しゅ}イエス・キリストによって^{ねが}お願いいたします。

一同 **アーメン**

司式者は、部旗を次の祈りをもって祝福する。聖水、香を用いてもよい。

司式者 主^{しゅ}よ、どうかこの部旗^{ぶき}を祝福^{しゅくふく}し、清^{きよ}め、これを受け^うける人^{ひと}びとをお守^{まも}りください。主^{しゅ}イエス・キリストによって^{ねが}お願いいたします。

一同 **アーメン**

いの
祈り

司式者 主^{しゅ}よ、憐^{あわ}れみをお与^{あた}えください

一同 キリストよ、憐^{あわ}れみをお与^{あた}えください

司式者 主^{しゅ}よ、憐^{あわ}れみをお与^{あた}えください

一同主の祈りを唱える。

天^{てん}におられるわたしたちの父^{ちち}よ、

み名^なが聖^{せい}とされますように。み国^{くに}が来^きますように。

みこころが天^{てん}に行^{おこな}われるとおり地^ちにも行^{おこな}われますように。わたした

ちの日^ひごとの糧^{かて}を今日^{きょう}もお与^{あた}えください。

わたしたちの罪^{つみ}をおゆるしてください。わたしたちも人^{ひと}をゆるします。

わたしたちを誘^{ゆうわく}惑^{まど}におちいらせず、悪^{あく}からお救^{すく}いください。

国^{くに}と力^{ちから}と栄光^{えいこう}は、永遠^{えいえん}にあなたのものです **アーメン**

ここで司式者は立つ。

司式者 わたしたちの助けは主のみ名に

一同 主は天地を造られました

司式者 主のみ名を賛美しましょう

一同 永遠に至るまでほめたたえます

司式者 主は皆さんとともに

一同 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

少林寺拳法部のため

司式者 知恵と力の源である全能の神よ、立教大学体育会少林寺拳法部をかえりみてください。み力を与えてこの人びとを守り、心身を強め、誠実の品性を養い、謙遜、柔和、節制の徳に進ませてください。また日々力を尽くしてみ跡を踏み、自らを鍛え、技を磨き、神と人びとに仕え、ついに朽ちることのない栄光の冠を得させてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

一同 アーメン

逝去者のため

少林寺拳法部に連なる方々で逝去された次の方々を覚えて折る。

- 1971 (S.46) 卒 川嶋 次夫 (かわしま つぎお)
 1972 (S.47) 卒 松田 幸晴 (まつだ のぶはる)
 1975 (S.50) 卒 村田 吉弘 (むらた よしひろ)
 1980 (S.55) 卒 伊東 邦男 (いとう くにお)
 1995 (H.7) 卒 久光 勝治 (ひさみつ かつじ)

以上、敬称略

司式者 慈しみ深い主よ、あなたは変わらない恵みをもって、生きて
 いる人と死んだ人とを守り、絶えず恵みの露を注いで
 くださいます。今わたしたちは、少林寺拳法部に連なり
 すでに世を去った人びとを覚えて祈ります。どうか世を去
 った人も、なお世にあるわたしたちも、常に主にあつて聖徒
 の交わりを楽しませてください。父と聖霊とともに一体で
 あつて世々に生き支配しておられる主イエス・キリストに
 よつてお願いいたします。

一同 アーメン

立教学院のための祈り

司式者 真理と光の源である神よ、立教学院に連なるすべての
 人々を守り、その活動を支え導いてください。
 学ぶ者と教える者、またそれを助ける者が、共に勇気と希望

を分かち^わあい、真理^{しんり}と平和^{へいわ}を^お追^もい^と求^もめることができますよ
うに。また愛^{あい}の魂^{たましい}と正義^{せいぎ}の心^{こころ}をも^もつて人^{ひと}びとと^{であ}い、
その豊^{ゆた}かさ^をと^ともに喜^{よろこ}ぶ^ことができますように、主^{しゅ}イエ
ス・キリスト^{によ}つて^お願^{ねが}い^{いた}します。アーメン

一同 アーメン

終わりに次のように言う。

主^{しゅ}イエス・キリスト^の恵^{めぐ}み、神^{かみ}の愛^{あい}、聖^{せい}霊^{れい}の交^{まじ}わりが、わたしたち
とともにありますように。アーメン

聖^{せい}歌^か 320 番^{ばん} (式文12・13頁)

使用聖歌集

1 さ か え に み ち た り か み の み の や こ は
 2 つ か き せ に ぬ あ い ち よ り い の ち の の い や た こ ず み は
 3 か き み と ぬ ま き も 血 いら を も て あ い み あ が な い た ま せ る
 4 と う と き 血 を も て あ い み あ が な い た ま せ る

と こ し え の い わ の いく しめ ず え か た く
 ゆ は た かな き の わ い き の む ない し き と な ね み ば
 は た な み を お う と し と さ ない し き と な み ば
 み た な み を お う と し と さ ない し き と な み ば

す く い の い し が き た か く か と こ め ば
 み く に の り よ し が は た か く か と こ め ば
 ほ こ に の り よ し が は た か く か と こ め ば
 た え せ ず ま つ つ り を あ さ さ げ し め た も う

み た み の や す き を た れ か は み だ さ
 あ ふ る る め ぐ み に た え ず う る お う
 こ よ な き の よ ろ こ こ び の ゆ も か し る わ か
 シ オ ン の み や こ こ の う る わ し る わ か

8787D

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | ^{さか} 栄えに ^み 満ちたる
^い とこしえの ^{いわ} 岩の
^{すく} 救いの ^{いしがき} 石垣
^{たみ} み民の ^{やす} 安きを | ^{かみ} 神の ^{みやこ} 都は
^い いしずえ ^{かた} 固く
^{たか} 高く ^{かこ} 囲めば
^{たれ} 誰かは ^{みだ} 乱さん |
| 2 | ^つ 尽きせぬ ^{あい} 愛より
^{ゆた} 豊かに ^わ 沸き ^い 出で
^に み国の ^よ 世 ^つ 継ぎは
^あ あふるる ^{めぐ} 恵みに | ^{いのち} 命の ^{いづみ} 泉
^く 汲めど ^あ 尽きねば
^{かわ} 渴く ^{とき} 時なく
^た たえず ^{うる} 潤う |
| 3 | ^{まも} 神に ^{まも} 守らるる
^は かなき ^{たの} 楽しみ
^{ほこ} 誇れる ^よ 世びとの
^こ よなき ^{よろこ} 喜び | ^{みやこ} 都の ^{たみ} 民は
^{ひな} 虚しき ^{とみ} 富に
^{あざ} 嘲り ^う 受くも
^{つゆ} 露も ^か 変わらじ |
| 4 | ^{とうと} 尊き ^ち 血をもて
^み 民を ^{おう} 王とし
^た たえせず ^{まつり} まつりを
^シ シオンの ^{みやこ} 都の | ^{あがな} 贖いませる
^{さいし} 祭司となして
^さ さげしめたもう
^う うるわしきかな |

詩49:2 イザ28:16 1ペト2:5-10 ヘブ12:22-24 黙21:22-22:5

1 あ め も み つ か い も か み を た た え よ
2 か み に た よ る た み 死 と つ み に か ち

日 も つ き も ほ し も よ ろ こ び う た え よ
と も に よ ろ こ び て 世 々 に た た え よ

あ い な る み か - み は あ め - つ ち つ く り き
み さ か え か が - や き み ち - か い か た き

か わ ら ぬ の り も て お さ め た ま え り
す く い の か み を ば も ろ び と う た え

8787D

1	^天 あめも ^{つか} み使いも	^{かみ} 神をたたえよ
	^ひ 日も ^つ 月も ^{ほし} 星も	^{よろこ} 喜び ^{うた} 歌え
	^{あい} 愛なる ^{かみ} み神は	^天 あめ ^{つち} つち つくり
	^か 変わらぬ ^ほ のりもて	^{ささ} 治めたまえり

2	^{かみ} 神に ^{たみ} たよる民	^し 死と ^{つみ} 罪に ^か 勝ち
	^{とも} 共に喜びて	^よ 世々に ^よ たたえよ
	^{さか} み ^{かがや} 栄え輝き	^{ちか} み ^{かた} 誓い堅き
	^{すく} 救いの神をば	もろびと歌え

詩148：1-5 エフェ5：1-2、18-20